

交流の絆をさらに未来へ

仙北市姉妹都市 提携30周年



昭和54年7月18日、大村市は秋田県角館町(現仙北市)と姉妹都市の提携を結び、民間・行政の両面でさまざまな交流を続けてきました。

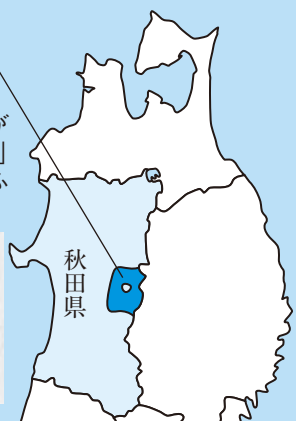
今年、提携30周年にあたり、7月10日(金)に仙北市で記念式典が開かれ、大村市からは松本市長・廣瀬市議会議長をはじめ、関係者など約20人が出席しました。

松本市長と石黒直次仙北市長は「姉妹都市提携に関する協定書」に調印しました。また、両市間の友好親善・経済交流に貢献したとして、吾往会と大村市物産振興協会に対し、仙北市長から感謝状が贈られています。式典に引き続き開かれた記念祝賀会では、将来へ向けて両市の絆が「層強まるように」との願いを胸に、両市の交流の輪が広がっています。

■問い合わせ 地域げんき課(内線184)

秋田県仙北市

- 面積:1,093.64km²
- 人口・世帯数:30,898人・10,818世帯(H21.6.30現在)
- 10,818世帯(H21.6.30現在)
- 姉妹都市提携:昭和54年7月18日(旧角館町と)
- 特徴:平成17年9月20日に旧角館町・旧田沢湖町・旧西木村の二町一村が合併して市制施行しました。市内には日本一の水深を誇る「田沢湖」があり、農業、卸売・小売業、製造業などが盛んで、自然と歴史にあふれた町です。



(旧角館町)

深い木立ちと重厚な武家屋敷で知られており、その町並みは、「みちのくの小京都」とも例えられる風情があります。特に名物のしだれ桜や松木内川堤の桜が咲き誇る4月末頃には、日本全国から多くの観光客が訪れています。



謹吾少年の像

姉妹都市提携の由来

大村市が旧角館町と姉妹都市提携の背景となったのは戊辰の役(1868年)です。東北地方で唯一の新政府側だった佐竹藩は、周囲の旧幕府側の攻撃を受けて孤立し、大村藩に援軍を求めました。大村藩士326名からなる北伐隊は角館に進軍し、庄内藩と激突の末退けたのです。しかし、大村藩の戦死者は7人を数え、遺体は郷里大村へ帰ることなく角館の常光院境内に眠ったのです。このなかには、15歳の少年鼓手、浜田謹吾少年も含まれていました。遺体の軍服には、母チカが出陣の際詠んだという和歌が縫い込まれていました。「二葉より 手くれ 水くれ 待つ花は 君の為にぞ させやこの時」
紅顔、謹吾少年の勇敢な活躍と、その母の子に寄せる心情は、往時の人々の涙を誘い、一世紀経過した今日、歴史をさかのぼって姉妹都市縁組実現に欠くことのできないできごととなっています。



姉妹都市提携を伝える当時の市政だより(昭和54年9月号)

紅葉の角館ツアー 参加者募集

紅葉が美しい仙北市(角館)を訪れてみませんか?

- 日程: 10月25日(日)~27日(火)2泊3日、全行程食事付き(2朝食、3昼食、2夕食)、長崎空港発着(自宅⇄空港の往來は各自でお願いします)
- 参加費用: 一人90,000円~100,000円
- 募集人数: 40人(先着順)
- 締切: 9月25日(金)必着
- 主な訪問先: 武家屋敷、田沢湖など
- 2泊のうちどちらかの夕食時には仙北市民との交流会を予定。
- お願い: 参加した人は姉妹都市親善協会に加入してください。(年会費:2,000円)
- 応募方法: はがきに参加希望者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を記入のうえ、お申し込みください。

申込先:856-8686(住所不要) 大村市地域げんき課内 大村市姉妹都市親善協会事務局